



2022年4月15日

集英社、小学館と戦略的業務提携を締結

～MDAMを基盤に雑誌コンテンツを使った新規サービスの創出を目指す～

平素より弊社の出版活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

講談社は、株式会社集英社（東京都千代田区）及び株式会社小学館（同千代田区）と、2022年3月8日（火）に戦略的業務提携を締結いたしました。3社が共通で使用している雑誌・書籍の編集制作支援機能とアセットマネジメント機能を兼ね備えた総合誌面制作プラットフォーム「MDAM（エムダム）」から、雑誌コンテンツを使った新しいサービスの創出を目指します。今後は戦略委員会を設置し、MDAMを基盤にした新しいサービスの企画・設計を行います。

◆業務提携に至る背景

雑誌のコンテンツは、すでに雑誌の紙版・電子版だけではなく、媒体のWebやSNS、外部配信サービスなど多くのメディアに多角的に展開されていますが、コンテンツの価値を生かした新しいサービスの創出は長年の課題でした。また、サービスの元となるコンテンツも各社ごとの環境で管理しており、それが総合的なサービスの設計においてハードルとなっていました。

しかし、複数の出版社がMDAMを採用することで共通の基盤を持つことができ、新しいサービスを創出する環境が整いました。そこで3社（講談社・集英社・小学館）は協議をして新しいサービスの創出を実現するために、さらに各社の知見・技術を持ち寄る必要があると判断し、業務提携をするに至りました。

MDAMの強みは、コンテンツメーカーである出版社自らが開発・運営をしていることであり、出版社がより主体的にサービスを創出する上で大きな武器になると考えています。

◆業務提携の主な内容

MDAM戦略委員会を設置後、3社（講談社・集英社・小学館）から委員を任命し、MDAMを基盤とする新しいサービスの企画・設計を行います。また、今後は様々な企業様にも協業・共創を呼びかけてまいります。



KODANSHA

◆MDAMとは

誌面を構成する画像やテキスト等のデータを一元管理できるプラットフォームです。集英社が中心となって開発し、講談社や小学館などの採用によってさらに発展いたしました。特集や記事ごとの進行管理・編集が可能で、編集者やデザイナー、ライターなどがこのプラットフォームにアクセスして入稿や校正等の作業を行うことができます。また、CMSとの連携機能など誌面を構成するアセットを各方面に展開する機能も実装されています。



◆MDAMの採用社（2022年4月現在）

講談社、光文社、集英社、主婦と生活社、小学館、世界文化社グループ（五十音順）

◆MDAMの導入促進・運用支援パートナー（2022年4月現在）

大日本印刷